

第 3 章

言語障害のある中学生及び小学校 6 年生の面接調査

I. 背景と目的・方法

II. 結果

III. まとめ

I. 背景と目的・方法

1. 目的

「言語障害のある中学生に関する実態調査」の調査結果から、言語障害のある中学生及び小学校6年生が通級している小・中学校のことばの教室から本人、保護者、校長、ことばの教室担当教諭より同意を得た14名の言語障害のある生徒を対象とした面接調査を計画した。面接調査では、下記の項目について質問を行い、言語障害のある中学生が必要としている指導・支援内容及び通いやすいことばの教室のあり方など、言語障害のある中学生のニーズを明らかにすることを目的とした。

- ・どのような理由で、ことばの教室に通っていますか？
- ・ことばの教室でどのようなことをしていますか？
- ・ことばの教室でどんなことをしたいですか？
- ・ことばの教室に通って良かったと感じることは何ですか？
- ・ことばの教室に通っていて困ったと感じることはありますか？
- ・どんなことばの教室だったら通いやすいですか？
- ・その他（感想、意見 等）

2. 方法

30分程度の個別面談を行った。実施回数は1回（30分程度）とした。本研究の研究代表者と研究分担者が、ことばの教室に通っている言語障害のある中学生及び小学校6年生を対象とした。実施に際しては、ICレコーダーによる録音と筆記記録を行った。筆記記録については、録音記録を補完するために使用した。調査内容は、匿名性を確保したデータとして加工した上で、分析、管理した。また、面接によって回答しにくい場合には、対象の児童生徒の意思を尊重し、担当教員の同席や書面での回答を依頼した。

調査内容を事前に説明し、回答したことによって、不利益な対応を受けることがないこと、いつでも調査協力を撤回できることを説明した（巻末資料8）。

但し、同意を撤回されたときすでに研究成果が公表されていた場合や、データが匿名化されて特定できない場合は破棄できないことを伝えた。

個人情報の取り扱いについても、本研究を遂行し、その後検証するために必要な範囲においてのみ利用することを伝えた。データや個人情報については、厳重に保管を行い、紛失・盗難・情報漏れがないよう十分に配慮すること、本調査で得られた研究成果を、学会・雑誌等で発表する場合も、プライバシーには十分配慮し、個人を特定できるような情報を公表しないことを伝えた。本調査で得られたデータは、本研究終了後、研究所の規定に基づいて適切に破棄することを伝えた。

Ⅱ．結果

1．言語障害のある中学生の面接調査の結果

言語障害のある中学生に対する面接調査について、以下、質問の回答について記載する。

質問1 言語障害のある中学生に「どのような理由でことばの教室に通っているか」質問した。回答は14件あり、内容が損なわれないように複数の研究者で整理した。

○ 学習面での理由

- ・授業についていけないから。
- ・通常の学級だと授業の進度が速いためついていけないから。
- ・小学校の高学年の時に勉強しなかったから。
- ・休んでいた分の勉強がわからないから。
- ・ことばの教室で学ぶと授業が楽になることがわかったから。
- ・先生と一対一でわからないところも素直に聞けるから。
- ・自分にあったペースで学べることで達成感があるから。
- ・ことばの教室で学んだ方法で、勉強ができるようになったから。
- ・苦手な教科の学び方を知ることができるから。

○ 悩みを相談できるから

- ・小学校の時から吃音があってことばの教室に通っていたから。
- ・人間関係で困ったから。
- ・友達や担任の先生と上手くいかないから。
- ・人と話すのが苦手だから。
- ・中学校に入学して、悩みが増えたから。
- ・勉強と悩んでいることを話すことが、ストレス解消になるから。
- ・小学校の時には、担任の先生に相談することができていたが、相談できる先生が必要になったから。

○ 教室に向かうきっかけとして

- ・中学生になって教室に入りづらくなったから。
- ・小学校にやすみ癖があったから。
- ・学校に通うきっかけをつかもうとして。

- ・このまま学校に行かないのは、自分が嫌いになりそうで、自分が自分を見つけることができないから。

○その他

- ・いろいろな人と友達になれるから。
- ・先生から「苦手な学習があるなら通ってみない」と誘われて、通ってみたらできるようになったから。
- ・楽しいから。
- ・わかりません。

質問2 言語障害のある中学生に「ことばの教室で現在、どのような活動をしているか」質問した。回答は13件あり、内容が損なわれないように複数の研究者で整理した。また、同じ回答については、（ ）の中に人数を示した。

○好きな活動

- ・カードゲーム（7人）。
- ・卓球、バトミントン、風船バレーをする。
- ・遊び（例えば、体を動かしたり、みんなでできるカードゲームをしたりする）。
- ・楽しいこと（パソコン、釣り）。
- ・最初の時間は勉強で、終わったらカードゲームで遊ぶ（3人）。

○学習的な活動

- ・ことばの教室にあるワークシートとプリントをする。
- ・追いついていない部分の勉強をする。
- ・宿題をする（3人）。

○ことばの教室の活動を通して生徒が感じていること

- ・自分のわからない教科を教えてもらいたい。
- ・ことばの教室で宿題をするとスムーズに進む。
- ・本当に勉強が嫌いになってしまって、そこで、将棋をしたり、手品をしたりしている。
- ・ことばの教室に来る友だちと雑談する。
- ・ことばの教室に来ている他の人とやると楽しいし、盛り上がる。
- ・友達と遊べるのが楽しい。
- ・今、悩んでいることとか、全部話す。

質問3 言語障害のある中学生に「ことばの教室で、どのような活動をしたいか」

質問した。回答は11件あり、内容が損なわれないように複数の研究者で整理した。

○現状のままでいい（5人）

- ・十分すぎる、これ以上どこを良くしたらいいのかわからないレベルである。
- ・通級の今の状態は最高である。
- ・ことばの教室の先生は、書くことが苦手な私に、アドバイスをくれるから。

○好きなことがしたい

- ・体育館で体を動かしたい。
- ・勉強、運動、カードゲームがしたい。
- ・できるだけ楽しいことがしたい。

○その他

- ・高校に行くための勉強がしたい。
- ・なにがしたいことは特にないけど、勉強から離れたい。なんか、話せたら良い。
たわいのない話でも、込み入った話でも。
- ・特にない。

質問4 言語障害のある中学生に「ことばの教室に通って、よかったこと」について質問した。回答は11件あり、内容が損なわれないように複数の研究者で整理した。

○ 学校生活が楽しくなった

- ・学校に来るのが楽しくなかった。
- ・遊びがあるから楽しくなった。
- ・一人で遊べるよりも友達が遊べるのが楽しい、休み癖は減った。
- ・ことばの教室が楽しいから、がんばれることもある。
- ・いい気分で学校に通うことができるようになった。
- ・学校に行けと言われた親の重み結構重かったけど楽になった。
- ・教室に入れない時に来ればいいから学校に来やすくなった。

○ 勉強のやり方がわかるようになった

- ・自分のなかで勉強が少しずつわかってきて、いいなって思った（2人）。
- ・ことばの教室で、ゆっくりとやって、ちゃんと理解して、わかって・・・。
やっていて良かった、通ってからと通う前では違う。

○ 友達ができた

- ・ことばの教室の中での友達との交流があつてよかった。
- ・友だちとふれあうのは楽しい。
- ・ことばの教室の仲間というのができる。

○ その他

- ・安心できる居場所である。
- ・自分の居場所ができたこと、自分を見つけること。
- ・いろいろなモヤモヤがぶっ飛ぶ。
- ・いろいろなことができる。

質問5 言語障害のある中学生に「ことばの教室に通って、困ったこと」について質問した。回答は11件あり、内容が損なわれないように複数の研究者で整理した。

- ・困ったことはない（8人）。
- ・小学校の時に担任の先生が友達に話してくれたから、周りの生徒もわかってくれているので、何も言わない。
- ・授業が突然替わったりすることで、たまに、情報が伝わらないことがある。
- ・学級の友だちにどう思われているのだろうと思ってしまう。
- ・自分の中学にないので、ことばの教室のある学校にいちいちいかないといけない。
- ・中学校1年生からあったら、ことばの教室を利用していたと思う。
- ・みんなが「どこに行っているんだろうな？」という目が気になった。

質問6 言語障害のある中学生に、「どんなことばの教室だったら通いやすいか」

質問した。回答は11件あり、内容が損なわれないように内容が損なわれないように複数の研究者で整理した。

- ・今のままでいい（4人）。
- ・自分の意思を尊重しやすい教室であること。
- ・小学校のことばの教室の先生が変わってしまったら、何も話さない。
- ・異性の先生だったらやめてしまうかもしれない。
- ・全中学校にことばの教室があること。
- ・もっと学級の友達と話ができる機会が増えたらすごい良く感じる。
- ・ことばの教室で友達と会える。
- ・地域の小学生や中学生が集まる文化センターにあったら、学校が終わった後や土日通いやすい。

- ・雰囲気が良くて、優しい先生がいる優しいことばの教室だといい。
- ・「free」、ことばの教室を感じさせない。
- ・みんなが見る掲示板にことばの教室のポスターを貼ったら全校の人が知ったらことばの教室に通う人が増えて賑やかになるかもしれない、先生は大変かもね・・・。

質問 7 言語障害のある中学生に、自由に感想等を求め、2 件の回答があった。

- ・この研究をことばの教室をよりよくするために活かしてください。
- ・この研究を通してことばの教室を広めてほしい。

2. 言語障害のある小学校 6 年生の面接調査の結果

以下、言語障害のある小学校 6 年生に対する面接調査の回答について記載する。

質問 1 言語障害のある小学校 6 年生に「どのような理由でことばの教室に通っているか」質問した。回答は 4 件あり、内容が損なわれないように複数の研究者で整理した。

- ・先生に勧められてことばの教室に通うようになった。
- ・昔からどもることがあって、5 年生になってどもるのがひどくなったから。
- ・吃音があったから。
- ・困ったりすることがある時に相談できるから。

質問 2 言語障害のある小学校 6 年生に「ことばの教室で現在、どのような活動をしているか」質問した。回答は 4 件あり、内容が損なわれないように複数の研究者で整理した。

- ・ことばがスムーズに出るための練習や苦手な学習をしている。
- ・絵を描いている。
- ・基本的にゲームをしている。
- ・休みの日のことを話したり、遊んだりしている。

質問3 言語障害のある小学校6年生に「中学校のことばの教室で、どのような活動をしたいか」質問した。回答は3件あり、内容が損なわれないように複数の研究者で整理した。

- ・中学校に入学してことばの教室に通うかは迷っている。
- ・ことばがスムーズに出るようになるための練習している。
- ・中学校生活の話をしている。
- ・中学校に行っても美術にかかわることをしたい。

質問4 言語障害のある小学校6年生に「小学校のことばの教室に通って、良かったこと」について質問した。回答は3件あり、内容が伝わるように複数の研究者で整理した。

- ・困っていることを相談できたことがよかった。
- ・友達から「去年に比べて明るくなったね」と言われて嬉しかった。
- ・去年までは友達が一人だったけど、他の友達とも話せるようになった。
- ・発表ができるようになった。
- ・気持ちが伝えられるようになって、家族から褒められた。

質問5 言語障害のある小学校6年生に「小学校のことばの教室に通って、困ったこと」について質問した。回答は3件あり、内容が損なわれないように複数の研究者で整理した。

- ・ない（3人）。
- ・発表会で役割が決まっている時に早退することがあるので、友達から「どうしていなくなってしまうの？」と聞かれる時に困ってしまう。
- ・ことばの教室に行くために授業を抜けるけど、家で勉強しているから問題ない。

質問6 言語障害のある小学校6年生に「どのような中学校のことばの教室だったら通いやすいか」質問した。回答は3件あり、内容が損なわれないように複数の研究者で整理した。

- ・絵の自慢ができたらいいと思う。中学校のことばの教室の先生が、絵を描く趣味が一緒だといいな。
- ・雰囲気的に楽しそうで、話しやすい先生が中学校のことばの教室の先生だといいな。
- ・小学校のことばの教室と同じような感じだといいな。

Ⅲ. まとめ

1. まとめ

面接調査の結果から、言語障害のある中学生（以下、「生徒」とする。）が、ことばの教室に通う理由として、学習面で困っていることや悩みを相談したいなどの理由が挙げられた。学習面では、「授業が早くて追いつけない」「数学や英語についていけない」など授業の進度が早く、内容を難しく感じることで、学習に対する苦手意識が顕著になっている。また、高等学校等への受験があることによって、生徒が学習上の課題を改善したいという切実な思いがあると考えられる。ことばの教室は、基本的に担当教員と一対一で自分にあった学び方で学ぶことができる。生徒からも「ことばの教室だとわからないところを素直に聞ける」「自分にあったペースで勉強でき、達成感がもてる」など苦手な学習に前向きな気持ちで取り組んでいることが伺える。

生徒には、学級や部活動等の友達や教師との人間関係に悩みを抱えている場合もある。小学校の頃は、困ったことを担任に相談することができていたが、中学校になると教科担任になるため、なかなか担任と相談できる関係を築きにくいことが考えられる。ことばの教室は個別指導のため、困っていることをじっくり相談しやすい環境にある。生徒も「中学に入ったら悩みが増えたから相談したい」「人間関係で困ったから相談したい」「今悩んでいることを全部話したい」と回答しているように、ことばの教室が安心して悩みを相談できる場所になっていることが推察される。不登校傾向にある生徒の回答からも、学校に通うきっかけとなったり、自分自身のことを見つめ直したりする大切な時間を過ごす場になっていることがわかった。

また、「いろいろな人と友達になれる」「少ない人数だと話しやすい」「友達と一緒に活動することが楽しい」など、ことばの教室で友達と過ごすことを楽しみにしている回答が多くあった。生徒の中には、言語障害があることによって、教室の中で自己表現ができず、友達とかかわることに苦手意識をもっている場合がある。ことばの教室に来て、同じな悩みや課題をもった友達と出会うことで、何気ない話をしたり、一緒にゲームをしたりして心を通わせることの楽しさを実感しているように思う。また、「本当に勉強が嫌いになってしまって、ことばの教室で将棋をしたり、手品をしたりしている。」と話していた生徒は、「将棋」や「手品」がしたいということもあるが、学びに向かうエネルギーを溜めているのかもしれない。ことばの教室で、何気ない遊びを友達とすることは、言語障害のある中学生にとって大切な時間になっていることが推察される。

今回の面接調査で「ことばの教室に通って良かったこと・困ったこと」を尋ねたところ、生徒からは、「これ以上なにを求めたら良いのですか」「学校に通うことが楽しくなった」など肯定的な意見が多数あった。ことばの教室が生徒にとって、担当教員と苦手なことに

取り組んで達成感を実感したり、悩みを相談したりできる安心できる居場所になっていることがわかった。また、生徒が自分のことを理解し、自分のことばでことばの教室に通う理由などを言語化できていることはとても大切なことである。「なぜ、ことばの教室に通っているのか」という問いは、生徒自身のことを自分で理解し、自分と語り合うことで見つかることである。このように自分と対話し、多感な思春期を迎えている生徒にとって、言語障害のある自分をみつめる大切な機会になっていることが考えられる。

最後に、言語障害のある中学生に「どんなことばの教室だったら通ってみたいか」と質問したところ「優しいことばの教室」「優しい先生がいてほしい」「自分の意思を尊重してくれる教室」「全中学校にことばの教室があってほしい」という願いを語ってくれた。ことばの教室という特別の指導をする場は、生徒にとって自信を回復したり、同じ悩みを共有したりできる友達と出会う貴重な場になっている。「ことばの教室が楽しいからがんばれる」という回答から、言語障害のある中学生が必要としている指導・支援のヒントがあると思われる。そして、言語障害のある中学生にとって、ことばの教室が「安心できる場所」であることが大切な要因であることが推察された。